

<憲法と表現の自由を考える出版人懇談会／第23回勉強会>

憲法改正国民投票法の 仕組みと問題点

安倍首相が“悲願”とする憲法の改正、とりわけ9条の改正が政治日程に上がってきた。自衛隊の観閲式では自衛隊を明記すると改憲への意欲を示した。改憲までには多くの課題があると思われるが、国会議員の3分の2以上の賛成で国民投票にかけることが可能であり、今や憲法改正が現実になりつつある。

しかし、憲法改正に至る手続きや「国民投票」での過半数はどのようなものか、有権者の過半数か？投票者の過半数か？などなどほとんど知られていない。また、残念ながら関心も薄い。

「国民投票法」はどのような法律か、内容や実際の運営方法はどのようになっているのか。実施に際して賛成、反対の意見表明や活動、報道機関への規制、新聞やテレビ広告の扱いなど国民投票の仕組みや問題点について山田健太さんにお話を聞きます。

講師 プロフィール

山田健太さん 専修大学教授(メディア・情報法 ジャーナリズム 人権法)
日本ペンクラブ専務理事

著作 「沖縄報道～日本のジャーナリズムの現在」筑摩書房、「現代ジャーナリズム事典」三省堂、「放送法と権力」田畑書店 ほか多数

会場地図

日時 2018年11月5日(月)

18:15 開場

18:30 講演

20:30 閉会

場所 文京シビックセンター 5F A会議室

参加費 1000円

主催 憲法と表現の自由を考える出版人懇談会

事務局 kenpoueighty21@yahoo.co.jp

